杉並木周辺の文化財

1 入道水眼鏡橋（にゅうどうみずめがねばし）（近世） マップD-3

この橋は、本来、菊陽町原水を東西に流れる瀬田上井手の入道水菅原神社参道に架けられていましたが、井手改修に伴い菊陽杉並木公園ハス池へ移設復元されました。復元の際に壁石・欄干が新設されていますが、特徴である真円に近いアーチ部はそのままの姿を残しています。
（橋長20m、高さ3.65m、橋幅1.48m、架橋年・石工等不詳）

2 鉄砲小路（てっぽうこうじ）（近世） マップD-2・E-2

鉄砲小路は加藤家の改易により、熊本藩主となった細川忠利公が、寛永12年(1635)頃にこの地に鉄砲衆を配置し、軍用防備に備えさせたことが名前の由来です。現在は地域住民により、生垣が整備・維持されており、散策路として親しまれています。

3 蘇古鶴神社の楼門（そこづるじんじゃのろうもん）（近世） マップD-2

寛永12年(1635)９月、鉄砲小路の守護神として勧請されました。現在の神殿は明暦元年(1655)12月に建立されました。祭神は阿蘇一の宮・二の宮です。この神社の参道上に町内唯一の楼門があります。銅板葺きの二層建築で、門内には「奇岩窓神」、「豊岩窓神」の異名同体の二神が祀られています。

4 鉄砲小路鳥栖家の木斛（てっぽうこうじとすけのもっこく）（近世） マップE-2

鉄砲小路の東端にあります。
細川忠利公が鳥栖家にお立寄りの時、この地に木斛が存在していたことが伝えられています。
（樹高15m、幹囲2.6m、推定樹齢350年）

5 柳水湧水公園（やなぎみずゆうすいこうえん） マップE-2

柳水地区は、以前「合志郡」でした。その合志郡には七ヵ所の湧水地があり、「合志の七水」と謳われて、当時の人々の羨望の的でした。その七水の一つが「柳水」であり、「柳の堤」です。柳の堤は、平成20年度に公園整備され、３反の堤には蓮の花が咲き、湧水は今なお、昔ながらの営みをくり返しています。

6 入道水菅原神社の楠（にゅうどうみずすがわらじんじゃのくす） マップF-2

入道水菅原神社の境内にあります。地上2.8mで三幹に分かれ、さらに地上約８mで数本に分岐していますが、樹勢は旺盛で町内随一の大樹です。
（樹高25m、幹囲7.8m、推定樹齢450年）

7 古宮の樫（ふるみやのかし）（近世） マップF-2

古宮跡と呼ばれる所にあります。この場所は、1649年～1794年まで火事で移転していた入道水菅原神社があった所です。
この樫は、ふるさと熊本の樹木に登録されています。
（樹高13m、幹囲3.1m、推定樹齢200年）

8 西園寺随宜の墓（さいおんじずいきのはか）（近世） マップF-2

西園寺随宜は、細川内膳家の祖忠隆の娘の徳と左大臣西園寺実晴の末子として京都に生まれましたが、宮仕えを好まず、寛文５年(1665)に入道水の安福寺に移り住み、寛文10年(1670)８月15日、病にかかり静かに一生を終えました。

9 古閑原眼鏡橋（こがばるめがねばし）（近世） マップF-2

古閑原の南側を流れる瀬田上井手に架かる橋で、井手の両側が堅い岩盤であることから、アーチの基礎は井手底から約2.2m上方から始まっている変形アーチ橋です。
（橋長6.7m、高さ2.8m、橋幅2.2m、架橋年1838年、石工：石切貞助）

10 石井樋表示石柱（いしいびひょうじせきちゅう）（近世） マップF-2

大津町から菊陽町原水にかけて広がる水田地域は、大津原と呼ばれた荒野同然の地でした。それが今日見る水稲栽培の美田に変わったのは、瀬田上井手の開削による恩恵です。その井手沿いに石井樋(取水量調整装置)が設けられました。現在は、この石井樋は姿を消し、その真上に建てであった石柱もほとんど残っていません。

13 放牛地蔵（ほうぎゅうじぞう）（近世） マップE-3

この地蔵尊は熊本県内に建立されたといわれる107体の放牛地蔵のうち66番目のものです。放牛地蔵については、江戸時代の熊本城下で無礼討ちになった父を弔うためにその息子が出家して「放牛」と名乗り、100体の石仏を建立したという伝承が残っています。

14 頼山陽詩碑（らいさんようしひ）（近代） マップD-3

頼山陽は、安永９年(1780)安芸国(広島県)生まれの幕末の学者です。文政元年(1818)に肥後を訪れ、豊後竹田へ向かう途中、杉並木の景観に感動して読んだのが次の詩です。

大道平々砥不如　熊城東去総青蕪
老杉夾路無他樹　欠所時々見阿蘇
（だいどうへいへいとをもしかず　ゆうじょうひがしにさねはすべてせいぶ
ろうさんみちをはさんでたじゅなし　かくるところときどきあそをみる）

この大きな道大津街道の平坦さはきっと砥石も及ばないだろう。熊本の城下を離れ東に進めば道沿いには一面の青々としたかぶらな畑が広がっている。又、道の左右には杉の大樹が整然と並び他の樹木は見当たらない。そしてその杉の切れ間からは、時々雄大な阿蘇の山々が見えてくる。

11 12 15 杉並木と里数木（すぎなみきとりすうぎ）（近世） マップF-3.D-3.C-3

天正16年(1588)に入国した加藤清正は、豊後街道の大規模な整備をしています。江戸時代の街道は凹型で、人馬の通る部分が周辺より低く、両側が土手になっていましたが、清正により、道幅が約30m に拡幅され、熊本市立田口から大津町までの約20Km（当時大津馬場と呼ばれた区間）にわたり、両側の土手に杉が植えられました。現在は、補植された杉が部分的に残るのみです。
また、各地の街道には、１里ごとに街道の両側に塚が築かれ、それで距離を標しました。その塚の目印として植えられたエノキなどの樹木を里数木といいます。熊本の里数木の起点は熊本城清爽園内の「札の辻」で、町内の街道区間にある「三里木」は、その名を地名に残しています。また、「四里木」は、原水の南方にありましたが、現在はその痕跡もなく四里木跡の標柱が立っているのみです。

参勤交代時代の豊後街道

現在のJR豊肥線と県道337号線

16 櫨並木（はぜなみき）（近世） マップC-4

元禄15年(1702)忠臣蔵で有名な赤穂浪士が切腹までの間、江戸の細川藩に預けられました。その時の厚いもてなしのお礼にと、大石内蔵助はろうそくの原料となる櫨の栽培を細川藩に勧めたと伝えられています。その後、豊後街道を始め藩内の各地に櫨が植えられ、ロウの製造により藩の財政は潤いました。

菊陽 歴史探訪マップ

交通アクセス

information

名称	電話番号
文化財ボランティアガイド（菊陽町南部町民センター内）	096-292-3200
菊陽町役場	096-232-2111
菊陽杉並木公園管理センター	096-349-2533
ふれあいの森研修センター	096-233-1080
鼻ぐり井手公園交流センター	096-232-8644
JR 光の森駅	096-215-2620
JR 三里木駅	096-232-1665

問い合わせ先
菊陽町教育委員会　生涯学習課
〒869-1103 熊本県菊池郡菊陽町大字久保田2598
TEL**096-232-4917**（中央公民館内）
URL http://www.town.kikuyo.lg.jp/

津久礼地区の文化財

17 大堀木逆修碑（おほるけぎゃくしゅうひ）（中世） マップE-3

安山岩の板碑を三角形にしたもので、大永年間(1521～1528)のものであると推定されます。昭和40年頃までは、円や蓮区を刻んでいるのが確認できましたが、現在それらを確認できないほど摩滅しています。なお、逆修とは、生前に自分の死後を供養することです。

18 若宮八幡宮の鳥居（わかみやはちまんぐうのとりい）（近世） マップE-3

安和２年(969)山城国久世郡男山八幡宮から八幡大神を勧請し、応神天皇とその御子仁徳天皇・神功皇后を併せ祀っています。以後700年余り、白川右岸の地にありましたが、水難や疫病のため、延宝６～７年(1678～1679)頃に村直りとともに現在地に移転建立されました。

19 鈴木重俊氏宅の木斛（すずきしげどししたくのもっこく）（近世） マップD-4

上津久礼集落のほぼ中央にあります。
木斛は、ツバキ科の常緑高木で非常に堅く、太りにくい木質のために、この程度の大きさになるためには相当な年月を要すると言われています。
（樹高17m、幹囲2.3m、推定樹齢300年）

20 下津久礼日吉神社の銀杏（しもつくれひよしじんじゃのいちょう）（近世） マップD-4

日吉神社の正面石段中央の東側にあります。銀杏は、イチョウ科の落葉高木で樹皮は灰褐色で浅く裂けており、葉は扇形で秋には黄色になります。
（樹高30m、幹囲4.6m、推定樹齢300年）

21 下津久礼日吉神社の楠（しもつくれひよしじんじゃのくす）（近世） マップD-4

日吉神社の本殿前にあり、地上約８mで分岐するまで無傷で、樹勢は極めて旺盛です。楠は神社や仏閣で多く見られ、熊本県の県木でもあります。
（樹高30m、幹囲5.5m、推定樹齢300年）

22 下津久礼六地蔵（しもつくれろくじぞう）（中世） マップD-4

室町時代の作と推定されます。
全高2.5m、最上部分と仏を刻んだ部分は後年の作ですが、笠・中台・幢身は当初からのものです。仏教で「六道」とは、地獄道・餓鬼道・畜生道・阿修羅道・人間道・天道をいい、「六地蔵」は、この六道において衆生を救う六種類の地蔵菩薩の総称です。

23 今石城跡（いまいしじょうあと）（中世） マップC-4

戦国時代末期の合志氏全盛期時代に薩摩の島津氏に備えた山城の一つです。天正13年(1585)島津氏の侵略を受け、今石城は落城し、その後、合志氏は滅亡しました。今石城の位置は、現在の今石神社とその後方台地と推定されています。

24 今石横穴群（いまいしよこあなぐん）（古代） マップC-4

明治17年(1884)県道瀬田・竜田線の開通により発見されたものです。当時は９基確認されましたが、現在は２号基、３号基のみとなっています。どちらも単室・複床式横穴で、七世紀中頃～後半(650～690)のものと推定されます。

25 梅の木遺跡（うめのきいせき）（古代） マップC-4

この遺跡は、白川右岸の氾濫原に位置し、これまでに２回の大規模な発掘調査が行われ、弥生時代中頃から終わり頃の住居や支石墓をはじめ、当時使われていたさまざまな遺物が発見されています。

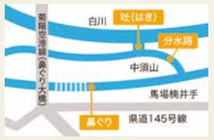
26 上津久礼眼鏡橋（かみつくれめがねばし）（近世） マップD-4

この橋は、津久礼井手と瀬田下井手の２つの流れに架かっていた菊池郡市内唯一の二連式アーチ橋です。平成元年(1989)に両井手はなくなりましたが、現地を公園化し、保存されています。
（橋長16.2m、高さ３m、橋幅2.8m、架橋年1838年、石工：戸次村住人の治助　明治元年(1868)再建）

南部地区の文化財

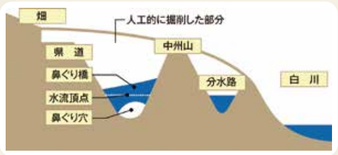
27 馬場楠井手の鼻ぐり（ばばくすいでのはなぐり）（江戸時代初期） マップE-4

加藤清正公の治山・治水の偉業は良く知られていますが、慶長13年(1608) 頃に掘削された馬場楠井手もその一つと伝えられています。
特に、この井手を著名にしたのは、約390mにわたって「鼻ぐり」と呼ばれる特殊な技法が用いられていたからです。
阿蘇を源にする白川水系は、火山灰土壌のため各河川とも土砂の堆積がひどく、灌漑用水井手の管理が悩みの種でした。特に、この馬場楠井手の曲手から辛川区間は岩山を掘削した所で、両岸は切り立ち地上から井手底までの深さは約15mにおよび、井手底の土砂を人力で排出することはきわめて困難と予想されました。そこで考案されたのが、水力を利用して土砂を次々に下流へ排出させる仕組みの鼻ぐり遺構でした。
構造の概要は、岩盤を利用して約2～5m間隔に幅約１m、高さ約４mの岩を壁のように残し、その下辺にカマボコ型の直径約２mの水流穴（鼻ぐり穴）をくり抜いたもので、この水流穴の形が牛の鼻輪を通す穴（鼻ぐり）に似ている所からこの名が付いたと伝えられています。
また、この区間は水量の調整機能も備えており、井手の増水時には、白川左岸の分水路へ増水を導き、分水路に設けた「吐」と呼ばれる遺構で自然に白川へ落とす技法が用いられています。
この鼻ぐり遺構は、当初約80基設けられ江戸末期に約50基が破壊されたとつたえられており、現在24基を残すのみとなっています。しかし、それでもなお現役として昔と変わらぬ機能をはたし、約176haの田畑を現在も潤しています。

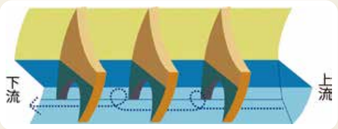


（井手底の様子）

鼻ぐり井手の断面



鼻ぐり井手の構造



カマボコ型にくり抜いた岩盤に水流がぶつかり、渦を巻きながら土砂とともに水流穴（鼻ぐり穴）から送出されます。

28 曲手阿弥陀三尊板碑（まげてあみださんぞんいたび）（中世） マップE-4

上部中央に阿弥陀如来、右上部に観音菩薩、左上部に勢至菩薩が線刻され、その下部には「逆修のために阿弥陀三尊を立造奉る」とあり、「道順禅門」「妙仲禅尼」の夫婦により天文23年(1554) ８月、供養の一貫として建立されました。

29 馬場楠井手の取入口（ばばくすいでのとりいれぐち）（近世） マップF-4

馬場楠堰は築造以来、何回か改修され、現在はコンクリートの堰になっています。この堰の横には馬場楠井手の取入口があり、この堅固な石井樋は昭和28年(1953) ６月の大水害にも耐え、今なお健在です。

30 妙見さんのムクの木（みょうけんさんのむくのき）（近世） マップG-4

戸次区の東端に妙見さんと呼ばれている見屋水神社の祠があり、この裏手に神木の椋の木があります。神木の根本から流れる湧水は涸れたことがなく、昔は日照りが続くと神社にこもり雨乞いをしていたと伝えられています。
（樹高22m、幹囲4.8m、推定樹齢400年）

31 合志伊賀守隆知の墓碑（こうしいがのかみたかとものぼひ）（中世） マップG-4

新空港大橋をわたり高遊原台地にのぼる途中、右手の小高い丘の上に440年近くにわたり静かに眠る戦国武将合志伊賀守隆知の墓碑があります。隆知は天正13年(1585)島津軍の侵略により、この地で戦死をしました。

32 戸次六地蔵の板碑（とつぎろくじぞうのいたび）（中世） マップF-4

圃場整備後に畑から掘り起こされたもので、型式から室町時代のものと推定され、中心には阿弥陀如来が線刻されています。また、この板碑の存在からこの一帯に集落があり、有力者がいたことも推定できます。

33 南郷往還跡（なんごうおうかんあと）（中世） マップE-6

道明から高遊原台地へのびるこの道は、中世～近世頃に、肥後国府と阿蘇南郷、さらに豊後竹田までを結んでいた幹線道路でした。当時は石畳が敷かれていましたが、現在はその一部(約180m)だけが残っています。

34 六道塚古墳（ろくどうづかこふん）（古代） マップE-5

この塚の概要は、直径７m、高さ３m、未調査ですが二段築成の円墳と想定されます。この地一体は、古くは唐川原と呼ばれ、南北朝時代、武将たちが激戦をくり返した古戦場として知られています。また、多くの遺跡等が散在しています。

35 井口眼鏡橋（いぐちめがねばし）（近世） マップD-4

馬場楠井手に架かる単一アーチ橋です。特徴は、輪石の接する部分に石クサビが使用されている点で、県内でも数例しか確認されていません。
（橋長10.75m、高さ2.65m、橋幅３m、架橋年・石工等不詳）

菊陽町の無形民俗文化財

36 津森神宮お法使祭（つもりじんぐうおほしまつり）（近世） マップE・F・G-4

毎年10月30日に行われる津森宮の祭りで、益城町・西原村・菊陽町の12地区を順次１年単位で巡り、１年間オホシサンと呼ばれる御神体を祀り、次の地区へ渡すものです。オホシサンを御輿に安置し、受け渡し場へ運ぶ途中に地面に落とす、大変珍しい祭りです。

37 馬場楠の獅子舞（ばばくすのししまい）（近世） マップF-4

お法使祭の際に舞われ、菊陽町では馬場楠区だけに継承されている獅子舞です。重厚な獅子頭をもち、獅子楽に合わせて前後２人にて舞う勇壮な舞いで、獅子のほかに、玉取り・三味線・笛・太鼓等総勢30名がこれにあたります。

38 上津久礼の川施餓鬼（かみつくれのかわせがき）（近世） マップD-4

この行事は、毎年８月19日に津白橋際の祖先の碑前で慰霊の読経が行われ、その後、施餓鬼船が人畜の無病息災と追善供養のため各組ごとに作成されます。以前は、作成した施餓鬼船に提灯と供物を飾り白川に流していましたが、現在は環境に配慮して、グラウンドに並べられて出来栄えを競います。